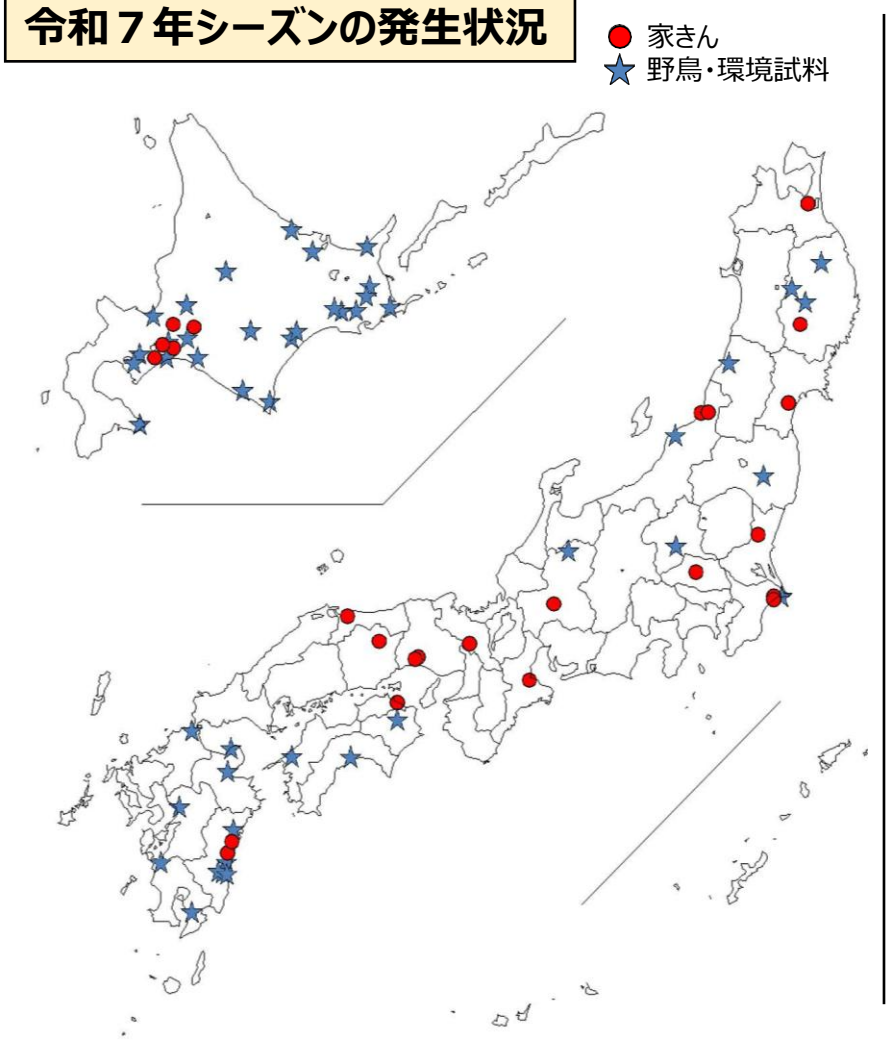
鳥インフルエンザワクチンをめぐる情勢①

（資料２）

○ **令和７年シーズン**は、 **地域に偏りなく発生**が見られ、**16道府県24事例発生**し、**約576万羽が殺処分**の対象となった。
○ **家きんの発生**は**10月から翌年4月まで**続き、初発はR6ｼｰｽﾞﾝに次ぐ早さ、最終はR5ｼｰｽﾞﾝに次ぐ遅さの**長期間の発生**。
○ **野鳥の感染**が**全国の広い範囲**で起こっており、農場及び家きん舎の周辺環境へのウイルスの侵入の主な要因となった。

令和７年シーズンの発生状況



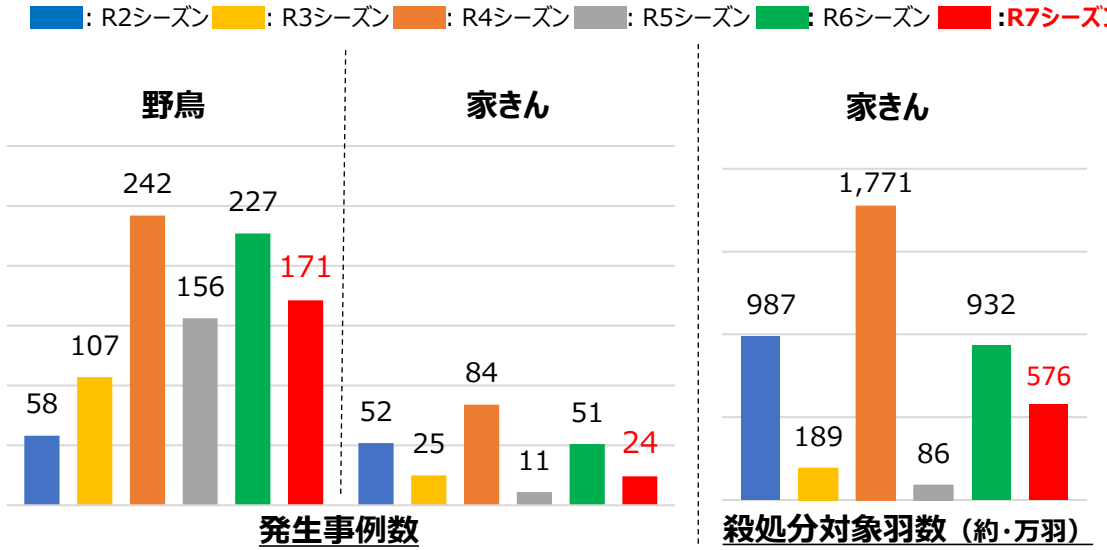
過去シーズンとの比較

（１）初発、最終確認日

		R2シーズン	R3シーズン	R4シーズン	R5シーズン	R6シーズン	**R7シーズン**
野鳥飛来確認日		９月１日	９月２日	９月１日	９月１日	９月３日	**９月１日**
初発	野鳥	10月24日	11月８日	９月25日	10月４日	９月30日	**10月15日**
	家きん	11月５日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日	**10月22日**
最終確認	野鳥	３月３日	５月14日	４月20日	４月30日	６月17日	**5月22日**
	家きん	３月13日	５月14日	４月7日	４月29日	２月１日	**4月22日**

（注）野鳥の日付は回収日

（２）発生事例数（野鳥、家きん）、殺処分対象羽数



（注）野鳥における発生事例数は環境省HP参照

鳥インフルエンザワクチンをめぐる情勢②

（資料２）

○　近年のHPAIの大規模な流行の継続により、国際的にワクチン利用の機運が高まりつつある状況
○　2023年５月のWOAH総会での決議以降、一部の国ではパイロットテストが開始されるなど、ワクチン接種の実施・検討に関する動きが進められている。

年　月	世界の動き
2023年５月	➢ **WOAH（国際獣疫事務局）**総会で、家きんへのワクチン使用の検討を促す決議が採択。
2023年10月	➢ **フランス**が、商用あひるを対象としたワクチン使用を開始。
2024年６月	➢ **EU**が、孵卵場での接種（卵内接種、１日齢雛への接種）が可能なワクチンを承認。
2025年２月	➢ **米国**が、ワクチン使用を検討することを表明。 ➢ **WOAH**及び**FAO（国連食糧農業機関）**が、**WHO（世界保健機関）**にも意見照会の上で、ワクチン接種による発生予防・管理にも言及した、鳥インフルエンザ対策の世界戦略（2024−2033）を公表。
2025年３月	➢ **オランダ**が、採卵鶏へのワクチン使用（パイロットテスト）を開始。
2026年	➢ **英国及びカナダ**が、七面鳥へのワクチン使用（パイロットテスト）を開始。 ➢ **デンマーク**が、七面鳥へのワクチン接種を秋頃に開始する方向で検討中。 ➢ **WOAH**がワクチン接種群でのサーベイランスに関するガイドラインを2027年半ばまでに作成する旨公表。